談話会

テーマ

『需要に応じた米生産の取組について』

11月1日、種苗交換会のメイン行事である談話会が、JA秋田しんせい本店で開催されました。

29年産で国による生産調整が終了するなど米政策が転換期を迎える中、秋田県産米をめぐる情勢や課題を共有することを目的に開かれ、農事組合法人や生産者、JA、行政関係者、流通関係者ら10人が談話会員として参加し、県立大生物資源科学部の中村勝則准教授が議長を務め意見交換が始まりました。

国は、平成30年産米以降、行政による生産数量目標の配分を取り止めるとともに、米の直接支払交付金を廃止する等、米政策の大幅な見直しを予定しています。生産調整に参加するかどうかの判断は生産者に委ねられるほか、生産調整の参加と関連づけられた交付金などのメリット措置がなくなれば、過剰作付けによる価格下落のリスクも懸念されます。これらを背景に談話会の討議事項では、①継続した生産調整の取組、②県産米の市場シェア向上に向けた取組、③コスト低減に向けた取組みの3点を設定しました。白神管内からは、能代グリーンファーム常盤の渡邉博さんが生産者側として出席し生産調整の取組では「過剰作付けが進み、米価が下落しては困る。生産量を確保しながら価格の安定を図ってもらいたい」と訴えました。

その他の討議事項においても、生産者は少なからず不安を抱えていることが伺われ、県、JA、生産者が一体となって需要把握に努め、求められる産地づくりを目指すことを確認し合いました。

学校農園展 2校が受賞

主会場では、児童らが学校農園活動を通じて得た知識や経験をまとめた、学校農園展が開催されました。今年は県内の中学校2校、小学校12校、支援学校9校が出展し、優良賞に鶴形小学校、審査員特別賞に渟城西小学校が見事入賞しました。

↑渟城西小学校の活動の記録

来年の種苗交換会は「秋田市」で開催！

農業機械化ショー

協賛第2会場では、最新の農業関連機械を展示する農業機械化ショー開催され、高性能のトラクターやコンバインなどがずらりと並び、来場者の注目を集めました。